

「原鉄道模型博物館と

グランパ横浜農場」見学

第41回神奈川会イベント報告

9月29日12時半、横浜そごう入口大時計前に26名の参加者が集合しました。今回は天気心配不要なイベントでしたが、好天に恵まれたのは、やはり気持ちがよいものでした。徒歩5分で「原鉄道模型博物館」に到着、館内は平日の昼間とあって、静かに堪能することができました。休日には入場制限もあるほどの人気スポットです。私共の年代にとって鉄道は独特のノスタルジーがありますが、一人での入場は何か面はゆいものがあり、今回は良い機会でしたとの声もありました。受験に、学校生活に、そして出張に、転勤に、里帰りに鉄道は、また新幹線は我々の心に深く刻みつけられていて、何らかの感懐を抱くものです。



原信太郎氏の所蔵された膨大な鉄道模型と、鉄道関係コレクションが公開されています。特長の第一は、蒸気機関車から電気機関車へと鉄道が著しい発展を遂げた時代の日本・ヨーロッパ・アメリカを中心とした世界中の鉄道車両を再現したコレクションであること。第二は、本物の鉄道車両を忠実に再現しており、室内施設としては世界最大級のジオラマである、模型は架線から電気をとり、鉄のレールを鉄の車輪で走行し、特にその”走行音”、レールのつなぎ目の音がゴトンゴトンと鳴り、本物と同じサウンドを聞くことができます。町並み、山、川を再現し、その中をいくつかの軌道を同時に走る鉄道模型は圧巻でした。また、映写室では東海道新幹線開業50周年を記念して開業時の新幹線0型の運転席から撮影した映像を流していました。ここから現在の全国の新幹線網を考えると鉄道日本の技術の発達とその水準の高さには感嘆しました。その昭和39年は東京オリンピックの年で、やはり首都高速道路が開通したのも同じ時期ですから参加者の方々には思い出深いものがあると思います。



今回のイベントでの女性参加者の少ない理由の一つに鉄道への愛着の違いにあると思いますが、当初それをカバーしようと計画したのが、お土産付のグランパ横浜農場の見学でした。JR桜木町駅から徒歩5分の至便な空地(市役所の建設予定地とのこと、ランドマークタワーにも近い)に直径29m、高さ5mのドーム型(形状はまさしく東京ドームで大きさはその1/70)の野菜工場が設置されていました。ここは試験農場で10月末に撤去されるのですが、同社の大規模な野菜工場は全国に7~8か所あるとのこと。この工場の仕組みは、面積を必要としない苗の段階で円の中心に植えて配置し、螺旋状に成長に応じて外延

に回転移動して外周で採取するもの。採光、水・肥料の補充、室温、回転速度などがコンピュータ管理され、毎日定量のレタスが年間を通じてコンスタントにスーパーの決まった売り棚に供給される。この工場は、毎日4百株の供給能力あり、スーパーの売値で1株200円とすると年間30百万円の小売ベースの売上規模となる。今回の見学では日本農業の将来の一端を垣間見られた。農業の将来性はあの小国のオランダが農産品の輸出ではアメリカに次ぐ地位を占めていること、日本はそのオランダに10年遅れているとの説明があった。保護行政が中心の農政についての検証が大いに必要と痛感した次第です。

最後にその日に採りたてのレタスをお土産にいただきました。幸運な方には二株を頂きました。現在の野菜高騰を勘案するとこのようなお土産を持参することは、例え飲んで帰っても奥様の評価が高いことは請け合いです。ということで、二次会には十六名が桜木町駅前の居酒屋に集いました。やや異色の二か所の見学から青春の追憶と日本の将来まで、談論風発、ときには喧々譁々の議論、まことに皆様はお若い!



文 章	写 真	編 集
中井 順一	木村 一雄・富山 友次	富山 友次